

4) 長崎県管理河川の現状

長崎県の地形



半島と島々が多く、山や丘陵が海まで迫る急峻な地形
狭い低地に住宅地が集中しやすい構造

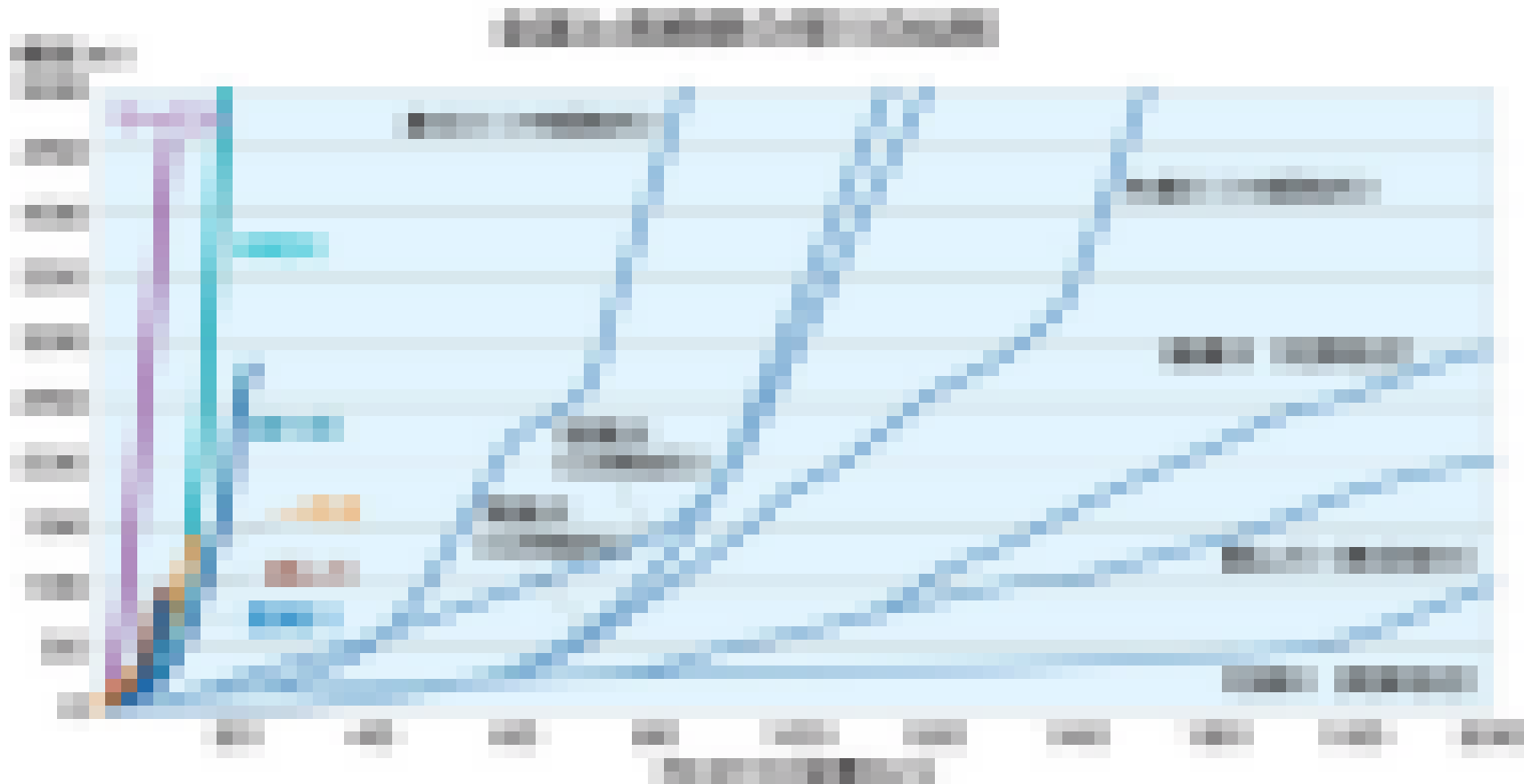
長崎県が管理する河川の延長

(平成29年4月現在)

区分	水系数	河川数	延長 (km)
一級河川	1	35	118.9
二級河川	210	341	1,026.1
合 計	211	376	1,145.0

一級河川：本明川水系の、本明川、半造川、福田川については、直轄（国）管理区間を除く。

全国と長崎県の河川の比較



長崎県の河川は、延長が短く・急勾配
洪水時は激流に。平常時は流量が少ない。

長崎県の過去の主な災害

昭和23年9月10～11日	豪雨(県北)
昭和28年6月25～29日	西日本水害(県北)
昭和30年4月14～17日	豪雨(県北)
昭和32年7月25～26日	諫早水害(県南)
昭和37年7月1～8日	豪雨(県北・北高)
昭和38年6月21日	豪雨(五島)
昭和40年	濁水(県南)
昭和42年7月5～8日	豪雨(県北・五島)
昭和47年7月3～13日	豪雨(島原・県北)
昭和51年9月10～18日	17号台風(県央)
昭和57年7月10～25日(23日)	長崎大水害(西彼・県南)
昭和62年8月30～31日	12号台風(五島・県南)
昭和63年5月8日	豪雨(島原・県南)
平成2年6月28日～7月3日	豪雨(県央)
平成2年11月17日～	雲仙普賢岳噴火(島原・深江)
平成3年9月27日	19号台風(県下全域)
平成5年～7年	濁水(県下全域)
平成11年7月23日	集中豪雨(諫早)
平成18年9月16日	13号台風(県下全域)

諫早大水害（昭和32年）

死者・行方不明者539人 床上・床下浸水3,409戸（旧諫早市内）



眼鏡橋上空

豪雨【県北】（昭和37年）

豪雨による地すべり。その土量は200万 m^3 といわれ、松浦線潜竜駅、国道204号、及び炭住約200戸が埋没。



潜竜ポタ山地すべり

（西日本新聞社提供）

昭和42年7月豪雨（昭和42年）



佐世保川の氾濫による佐世保市街地の濁流
（県北開発振興局より望む）

長崎大水害（昭和57年）

1982年7月23日
死者行方不明者
299名



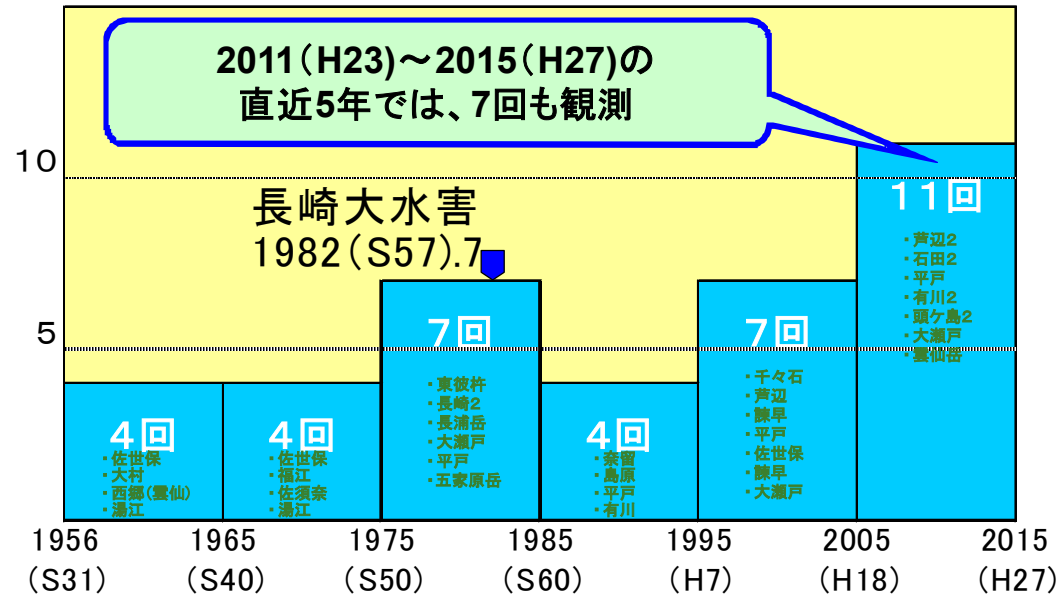
甚大な土砂災害が多発
37名の命を奪った
川平の土石流(浦上川)



中島川の洪水で
一部流出した眼鏡橋
河川災害の原因

- ①改修の不足
- ②都市化の進展

長崎大水害以降増加する集中豪雨



時間最大雨量100mm以上の回数は増加傾向
 H24(2012)年10月には大瀬戸で、105.0mm/hr、
 H27(2015)年8月には雲仙岳で134.5mm/hrと連続して発生
異常な集中豪雨：どこでも発生しうる！

大規模災害は、「必ず起きる」と認識
 ⇒災害の未然防止(ハード・ソフト両面)

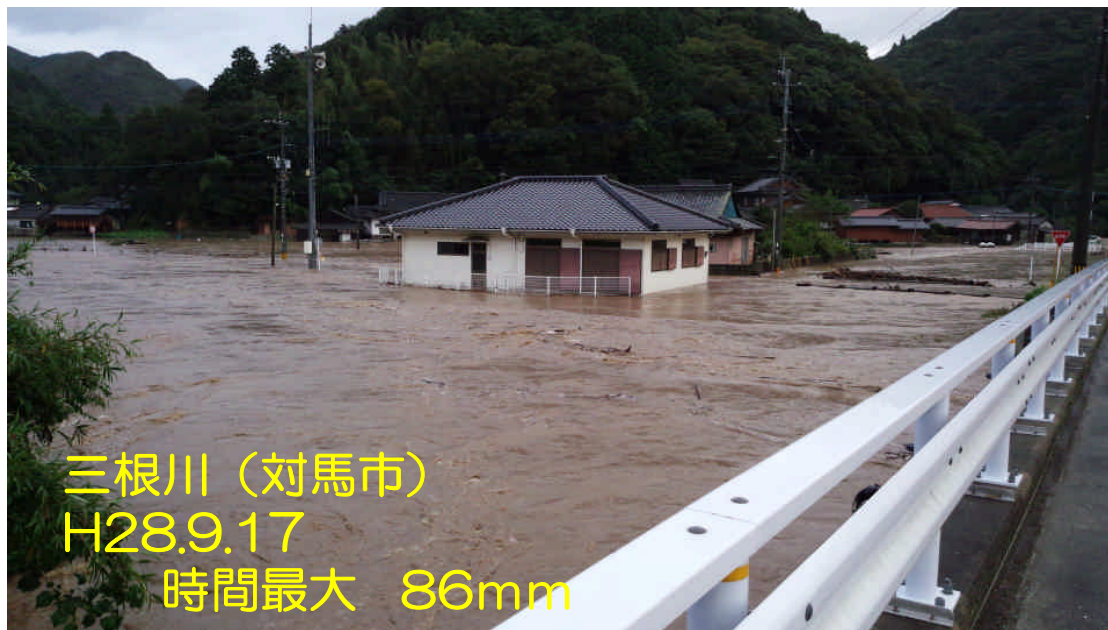
集中豪雨により続く災害

2級河川佐護川(対馬市) H21.7



早急な河川改修が必要

H27・28年災害（県内）



三根川（対馬市）
H28.9.17
時間最大 86mm

平成27年度災害

- 8月31日 江の浦川（諫早市）
- 9月1日 高浜川、小浦川、久田川、佐須川、加志川、久根川、瀬川（対馬市）
- 9月17日 加志川、豊川、比田勝川（対馬市）
一部、床上・床下浸水被害

平成28年度災害

- 4月21日 日野川
- 6月20日 江の浦川、有喜川、須川川、釣道川
- 6月22日 江の浦川、小ヶ倉川、早岐川、宮村川、日野川
- 7月2日 佐護川
- 7月13日 よし川
一部、床上・床下浸水被害



佐護川（対馬市）
H28.7.2
時間最大 54mm

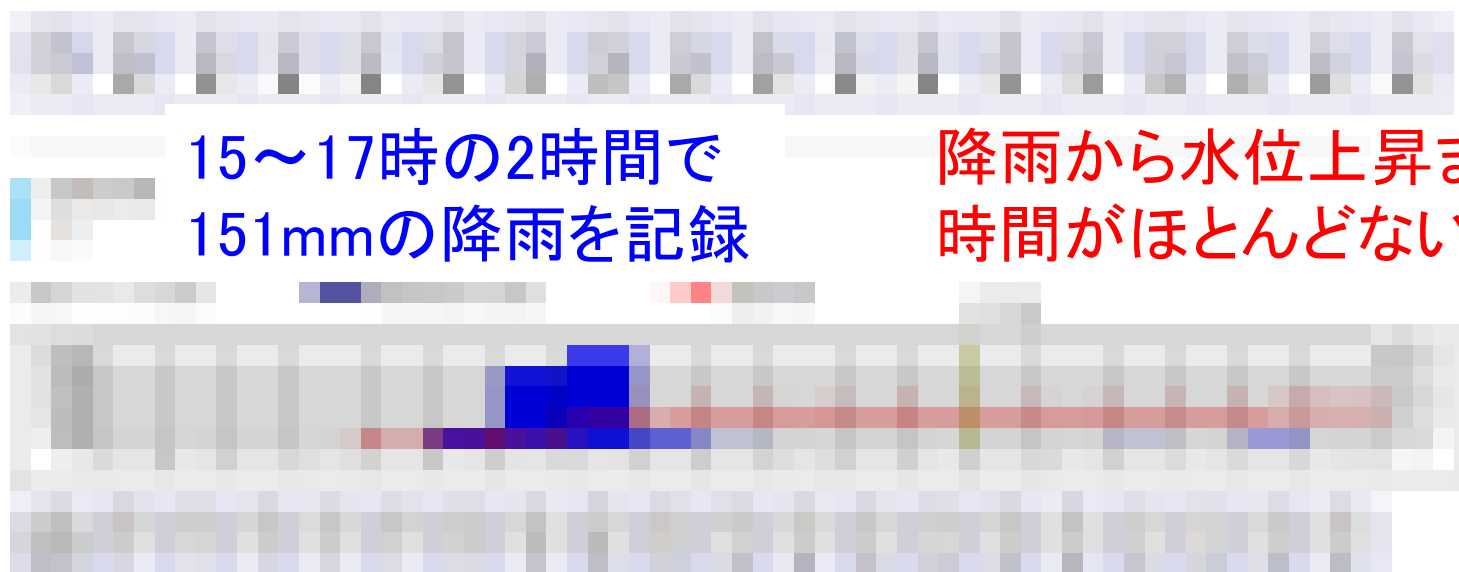
長崎県における水位の特徴 H28.9.17三根川(対馬市)

降雨直後から水位の上昇が見られ、
16～18時の2時間で3.3mの水位上昇
が確認された。

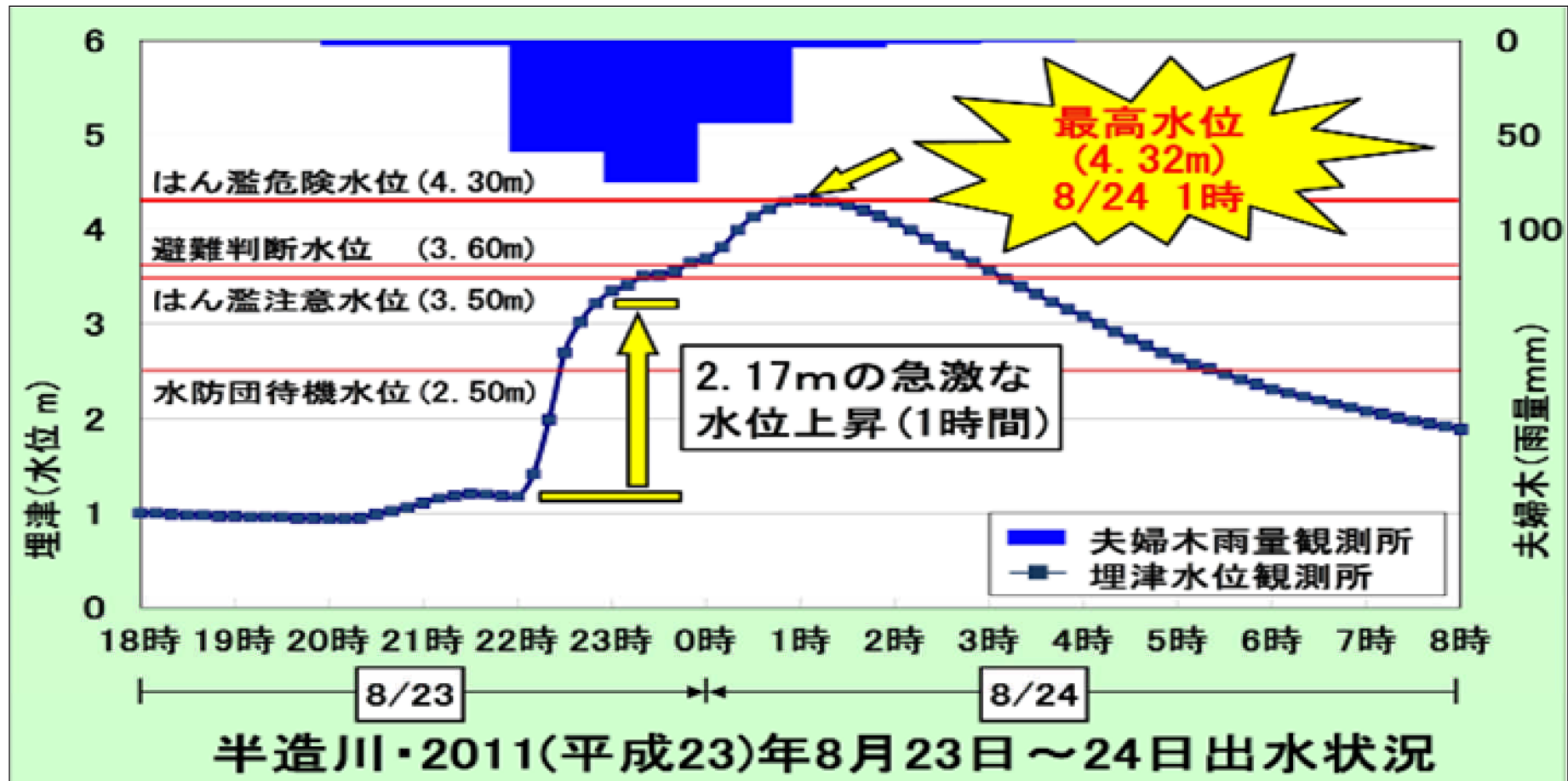


15～17時の2時間で
151mmの降雨を記録

降雨から水位上昇までの
時間がほとんどない



情報伝達の限界

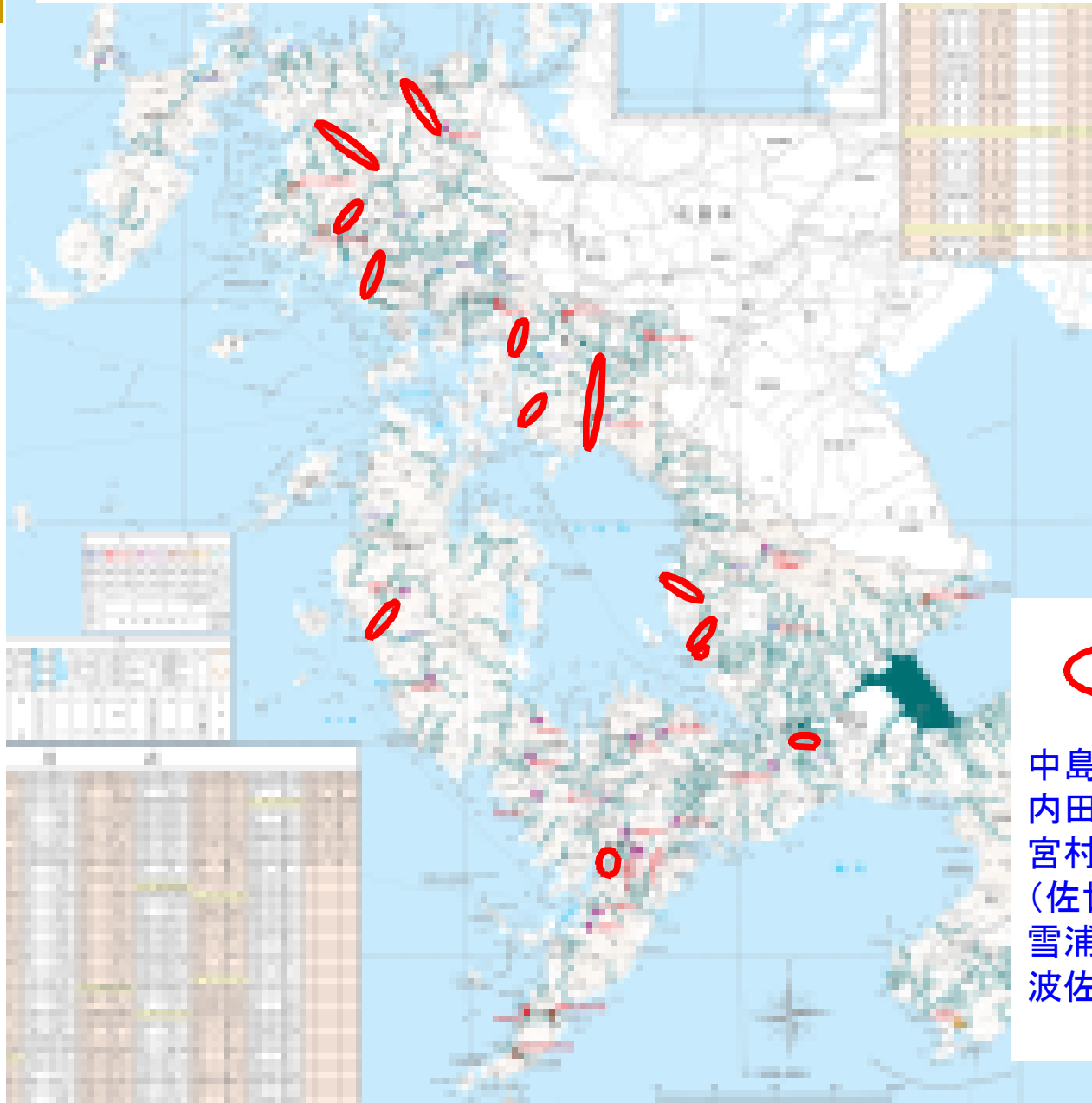


県内の河川は、豪雨で急激に水位上昇する特性。
⇒行政による情報伝達が難しくなる可能性。 12

県管理河川の管理と整備状況



浸水想定区域図の策定(施設計画規模)

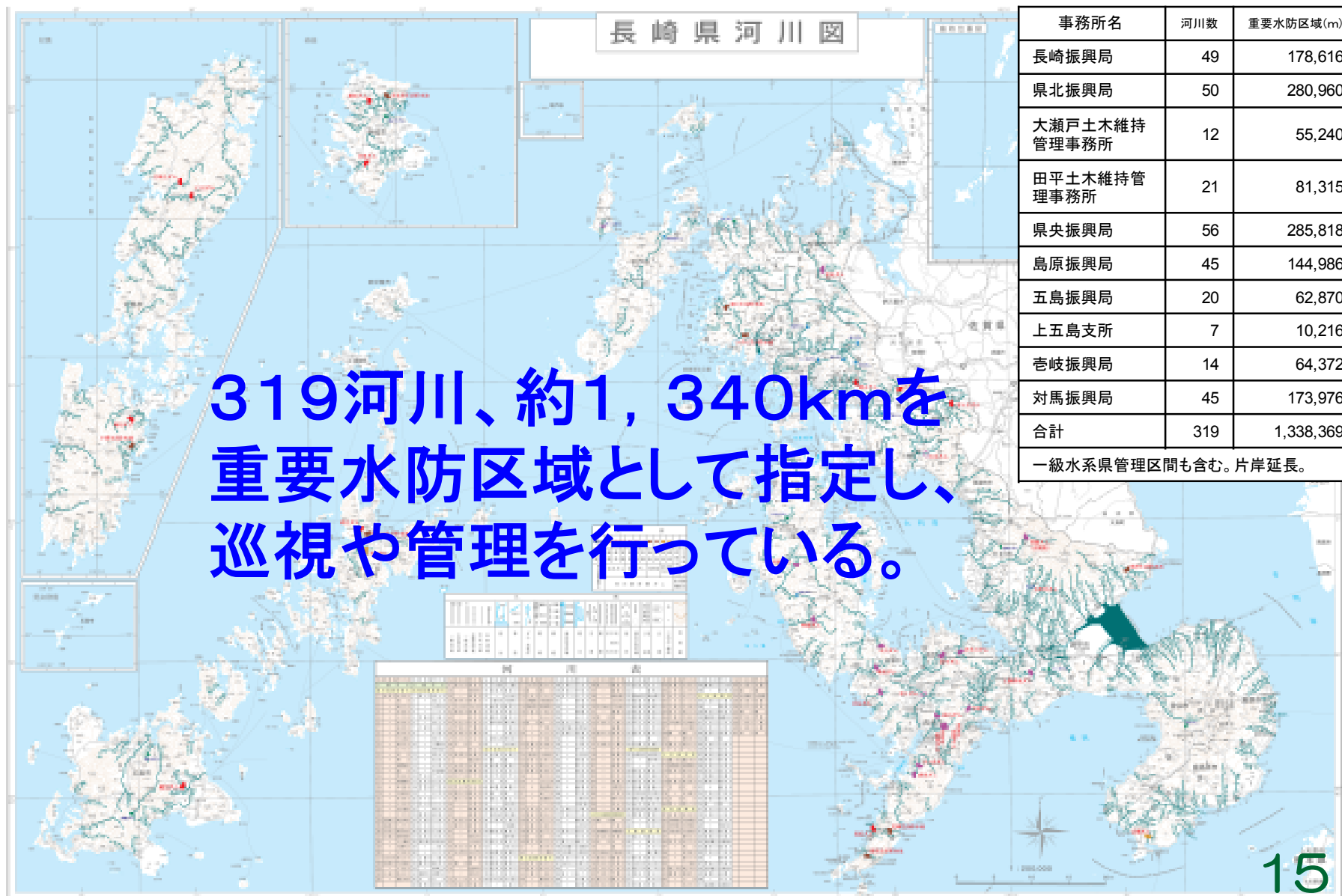


水位周知河川 13河川で作成

中島川(長崎市)半造川(諫早市)
内田川、大上戸川、郡川(大村市)
宮村川、早岐川、相浦川、江迎川
(佐世保市)、志佐川(松浦市)、
雪浦川(西海市)、川棚川(川棚町、
波佐見町)、佐々川(佐々町)

重要水防区域

・過去の被災状況や復旧状況、河床洗掘・埋塞から重要水防区域を定めている



県管理ダム状況

県内35ダムを整備・管理中
うち、多目的ダム16
治水ダム11
生活貯水池8



県内の現状などからみえる水害リスク

- ・ 県内の多くの地域は、地形的要因として山や丘陵が海まで迫る急峻な地形をしており、上流で降った雨が一気に下流に流下するため短時間で急激な水位上昇が発生し、避難や水防活動にかけられる時間が短いことが考えられる
- ・ 河床勾配が急なことから流速が速く、洪水に勢いがあることから、過去の災害をみると、河岸侵食による堤防決壊や土砂流出を伴う土石流による家屋倒壊の被害が発生している
- ・ 橋梁等が流木やごみを捕捉し更なる被害が発生、多くの瓦礫が発生することによる災害復旧の遅れが考えられる
- ・ ハード対策の必要性
- ・ 水位周知河川が376河川中13河川と少なく、多くの河川で浸水想定区域図も作成されておらず、避難判断の情報が不足している
- ・ 発信した情報が正しく共有、理解されておらず避難行動に繋がっていなかった
などが確認できた。